

地域医療を守る長野県連絡会ニュース

地域医療と公立・公的病院を守る長野県連絡会 No. 3 2020年 2月 28日
TEL 026-223-1281 FAX 026-223-1291 E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

地域・患者とともに医療を

国保依田窪病院「病院、地域、患者、みんなで地域を考えたい」

(三澤弘道院長) 人間が住むには、水道とか、医療がないと住めない。いくら車が発達しても。病院があっても見てもらえないのでは、その地域が崩壊していく。合併を当院と東御市民病院ができるわけがない。30分はかかるし住民の生活圏が違う。当院のような小さな病院で特色持って、働いている人も、住民もお互い良い感じでやっていくのがいい。組合立なので町長とも共有して、全国町村会でも国に陳情している。病院は長和町にとっても一番おおきな企業。雇用にも大きな影響。一番は地域を守ること「ゆりかごから墓場まで」外科系からシフトして内科医を増やし、優しい病院をめざしていく。コメディカルといかにうまくやっていくかも大切。みんなで地域をまもる。病院、地域、患者、みんなで地域を考えたい。



2/7 国保依田窪病院

佐久病院小海分院「地方切り捨てのような話」

(由井和也副院長) 地域の方から心配と強い不安の声が寄せられた。率直にいきなりこうした形で情報がでたことは遺憾に思っている。佐久総合病院は、農村医療を守ることを使命にしてきた病院で、今農村が疲弊してきていることに抗わなくてはならない。この南佐久地域は特に農業など第1次産業の割合が収入として多い。この農業地域を支えることを使命として掲げている私たちにとって、今回の話は地方の切り捨てのような話。南佐久5町村の首長の皆さんからの期待があって建てられた病院。今もその期待に違わず、それに応えるべく頑張っている。小海町の議長名で国に嘆願書と川上村長による意見書を提出した。中小病院の連絡協議会をもって意見交換をしてきている。診療については患者さんを取り合うということではなく、他医療機関ともよく連携し、それぞれの病院の機能に応じて役割分担と住み分けができて

国立病院機構まつもと医療センター 「救急医療とセーフティネット 医療しっかりとやっていく」

(小池祥一郎院長) 医師がいなくなると経営問題になる。廃院は避けなければと、先駆けて10年かけて中信松本病院と統合した。病院名公表後に職員にも説明をした。記事に付帯する背景の説明が不足していると思う。ある議員さんから「一緒になるの?」という声もあった。地域への説明不足もあるのかと思う。もともと国立病院機構としては、セーフティネット、政策医療をやってきた。他院がやっていないことを得意としているので他と競合しない。統合にあたって、救急病院の機能とセーフティネットとしての医療をしっかりとやっていきたい。



2/4 佐久病院小海分院



2/10 国立病院機構まつもと医療センター